教材研究ノート№2-A-12

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・同じ数のたし算を，かけ算に表せることを理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・2けたの数同士のたし算などで，十の束いくつ

分など，いくつ分でみる見方を学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・増え方のきまりに着目してかけ算の答を求める経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・10の分解でたす数とたされる数のきまりに目をつけて，数が伴って変わることに着目して考えている。

≪学習問題≫

ジェットコースター１だいに5人ずつのれます。１だいぶんから9だいぶんまで，じゅんに，のれる人の数を求めよう。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

クリア課題

**MCj03319920000[1]**

②見通し:ブロックを使っても20人までしか調べられない。

→たし算に直せば計算することができる。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題:たし算に直したり答の増え方のきまりに目をつけたりして，5×○のかけ算の答えを求めよう。

③個人追究:たし算に直したり答えのきまりに着目したりして追究する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの求め方にも共通していることは何だろう？」

→「かける数が1ずつ増えると答えが5ずつ増えている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「増え方に着目してかけ算の答えを求めていいのかな？」

→「たし算の式を見ると，5が1つずつ増えている。」

「5のかたまりが1つずつ増えるから答えが5ずつ増える。」

「たして10になる数を求めるときも，たす数が1増えるとたされる数は1減るというきまりがあった。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・5×　のかけ算は，かける数が1ずつ増えると，＋5が1つずつ増えるから，答えは必ず5ずつ増える。

・4×○や3×○の場合も同じ考え方でできそうだ。

⑥定着･活用問題

つくった5の段の九九を使って，5×7の式になる問題をつくり，答えを求めなさい。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・挿絵などをもとに，「5の何倍」という見方から，かけ算の用いられる場面であることを確認し，「基準量のいくつ分」で考えればよいという見通しを持たせたい。

・数図ブロックなどの具体物の操作を通して，5個ずつ増えていく実感を持たせながら，乗数が１増えると答えが5ずつ増える5の段の九九の規則性を利用して九九を構成したい。

【板書計画】